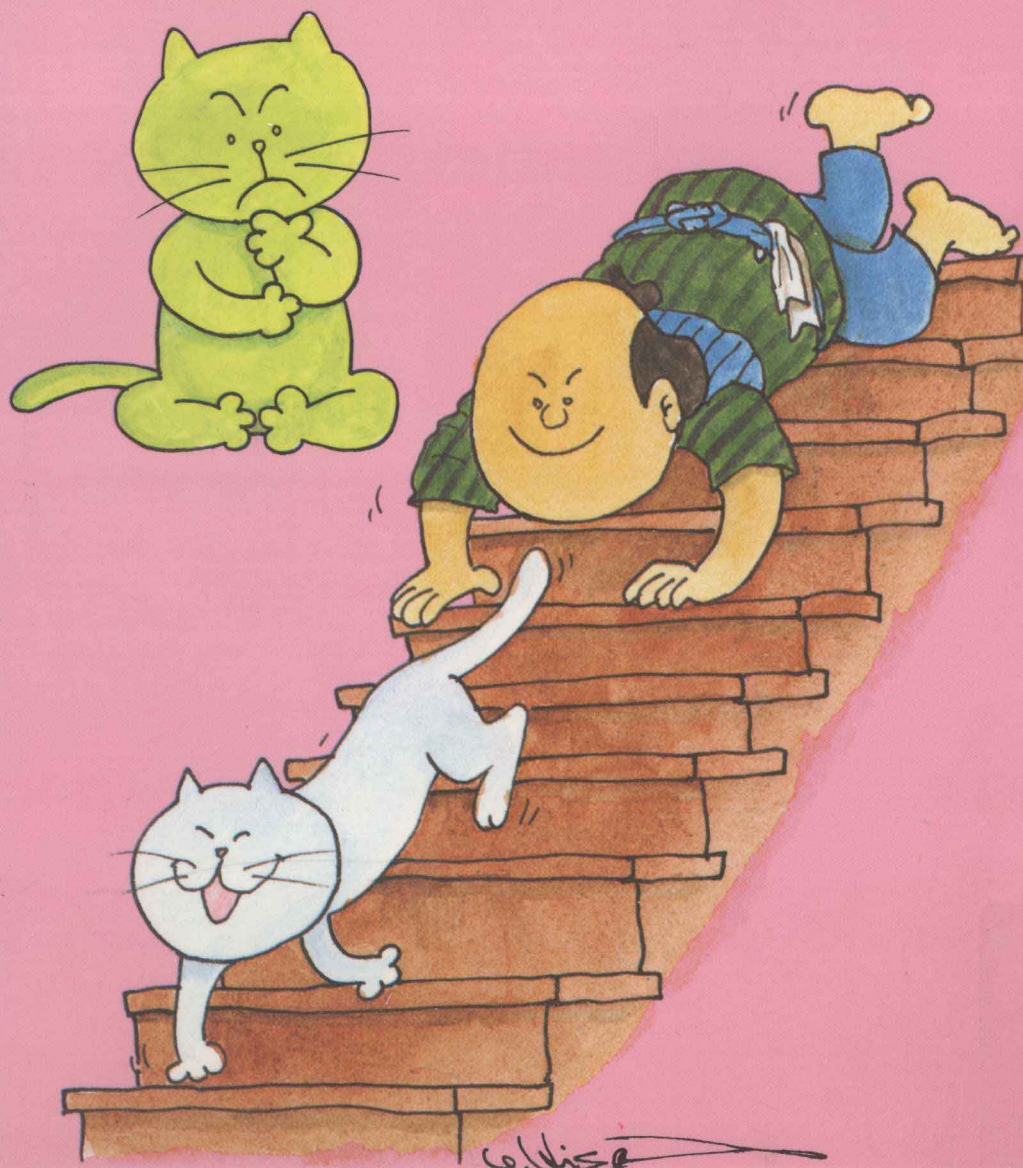


寺村輝夫の むかし話

わらいばなし

寺村輝夫・文／ヒサ クニヒコ・画





文 / 寺村 輝夫

1928年東京生まれ。早稲田大学卒業。文京女子短期大学保育科教授。毎日出版文化賞、国際アンデルセン国内賞、講談社出版文化賞絵本賞、厳谷小波文芸賞を受賞。「寺村輝夫童話全集」をはじめ、「ぼくは王さま」「おしゃべりなたまごやき」「おおきなちいさいぞう」「おはなしりょうりきょうしつ」「おにのあかべえ」「どうぶつえんができた」など童話や民話の著作が多数ある。



画 / ヒサ クニヒロ

1944年東京生まれ。慶応義塾大学卒業。在学中「漫画研究会」に所属。第18回文春漫画賞受賞。作品に、漫画集「マンガ版太平洋戦史」「さようならをいわないで」「ヒサクニヒロの国鉄あちこち体験記」、児童書「ヒサクニヒロ恐竜の研究」「ちゅうたのクリスマス」、さし絵に「さびしい王様」「おにのあかべえ」など多数ある。漫画集団、日本漫画家協会会員。

寺村輝夫のむかし話 わらいばなし

1978年10月初版発行 1987年11月第57刷

作 者 寺村輝夫・ヒサクニヒロ

発行者 岡本雅晴

印刷所 錦明印刷株式会社

写植所 株式会社田下フォト・タイプ

製本所 中央精版印刷株式会社

発行所 株式会社あかね書房

東京都千代田区西神田3-2-1

☎03-263-0641(代) 振替東京3-64150

NDC388

寺村輝夫

わらいばなし

あかね書房 1987

111P 21cm

寺村輝夫のむかし話⑤

©寺村輝夫 ヒサクニヒロ 1978 Printed in Japan

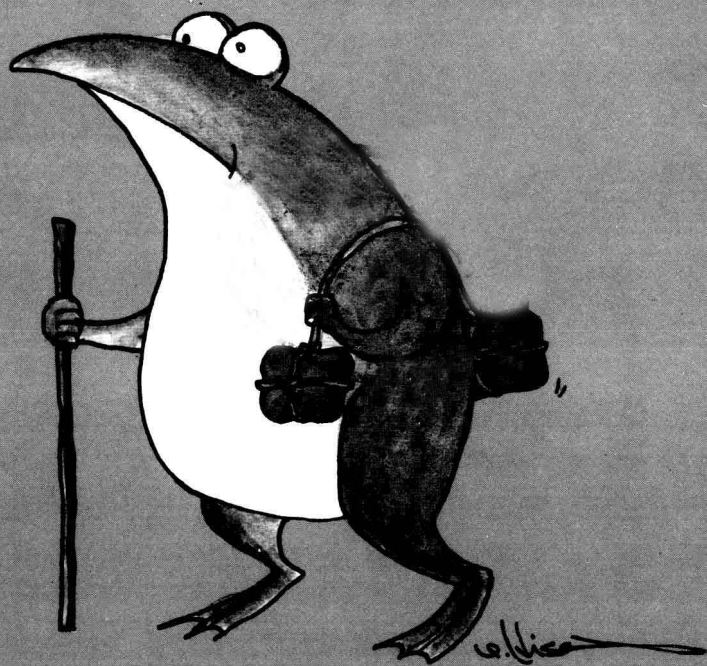
〈検印廃止〉 落丁本、乱丁本はおとりかえします

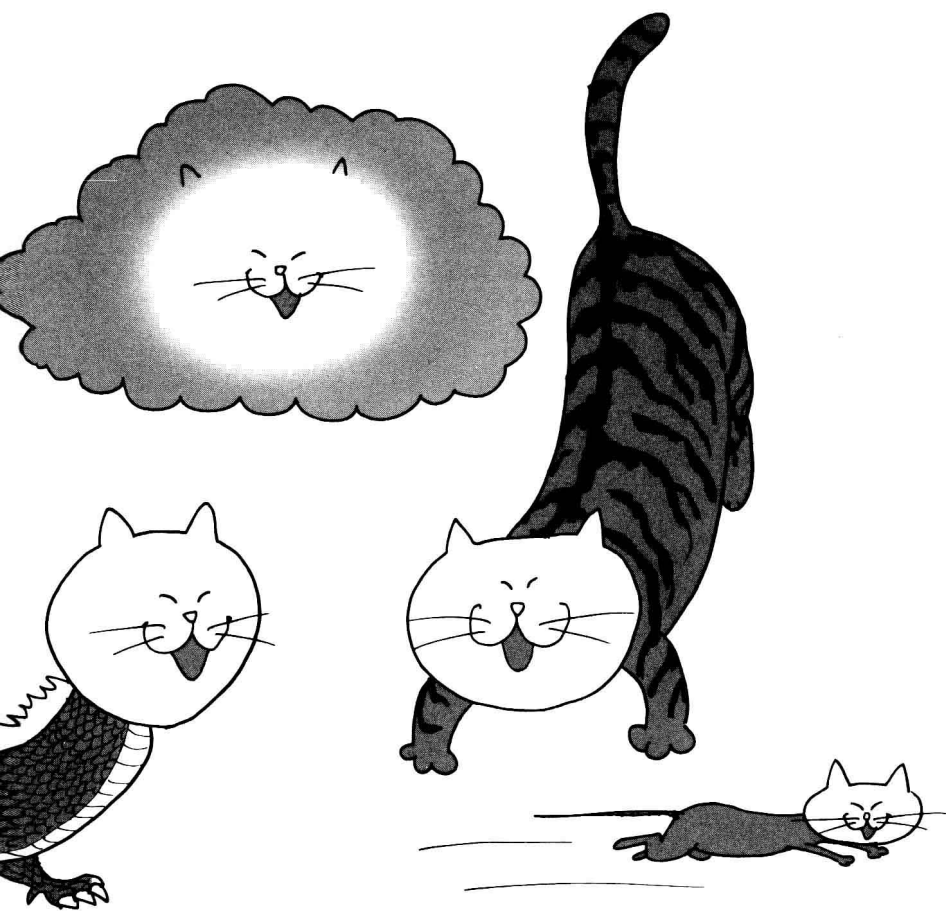
ISBN4-251-06015-6

むかし話 むかし話

わらいばなし

寺村輝夫・文／ヒサ クニヒコ・画





もくじ

かさやのかさうり

8

ねこの名まえ

11

ほりもののねずみ

14

まめを二つぶずつ

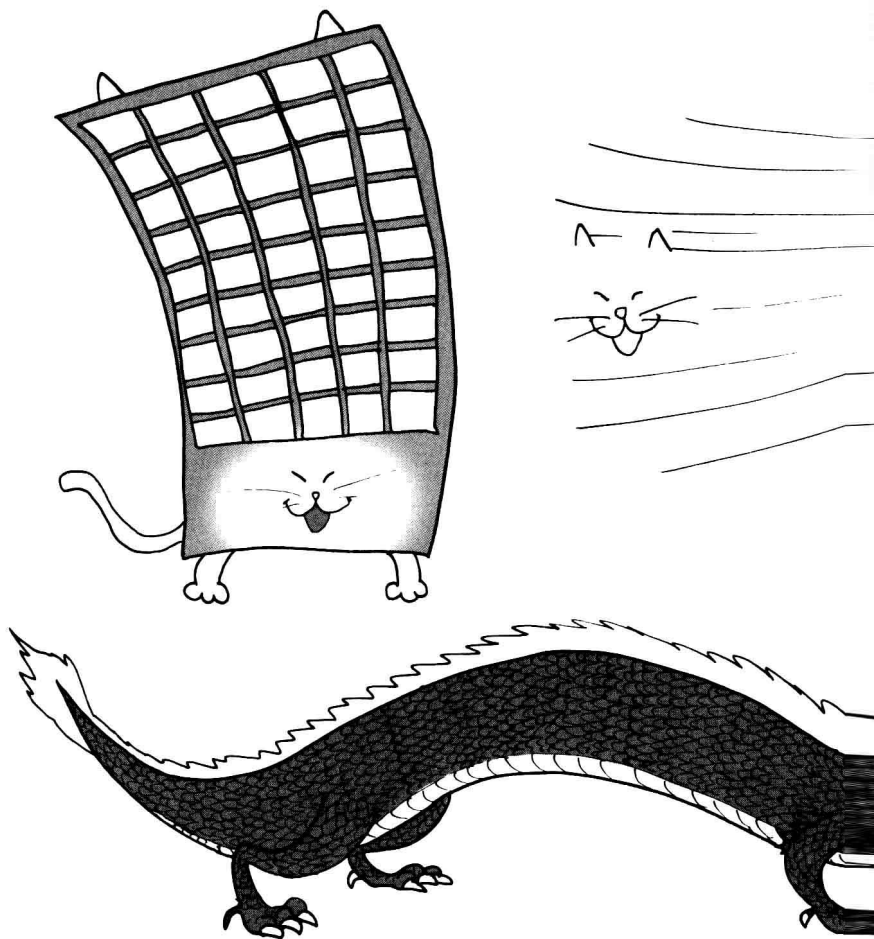
18

さかさのかいだん

20

やどやのめじるし

22



京きょうのかえる

24

かしわもち

26

へびになれ

28

大おおきなかぶ

30

おかねをひろう

32

くさかつた

34

火ひのこもやらん

36

きものをぬげ

38

なくなつたおやじ

40

すいかのち・

42

おはつけるな

44

平林ひらばやし

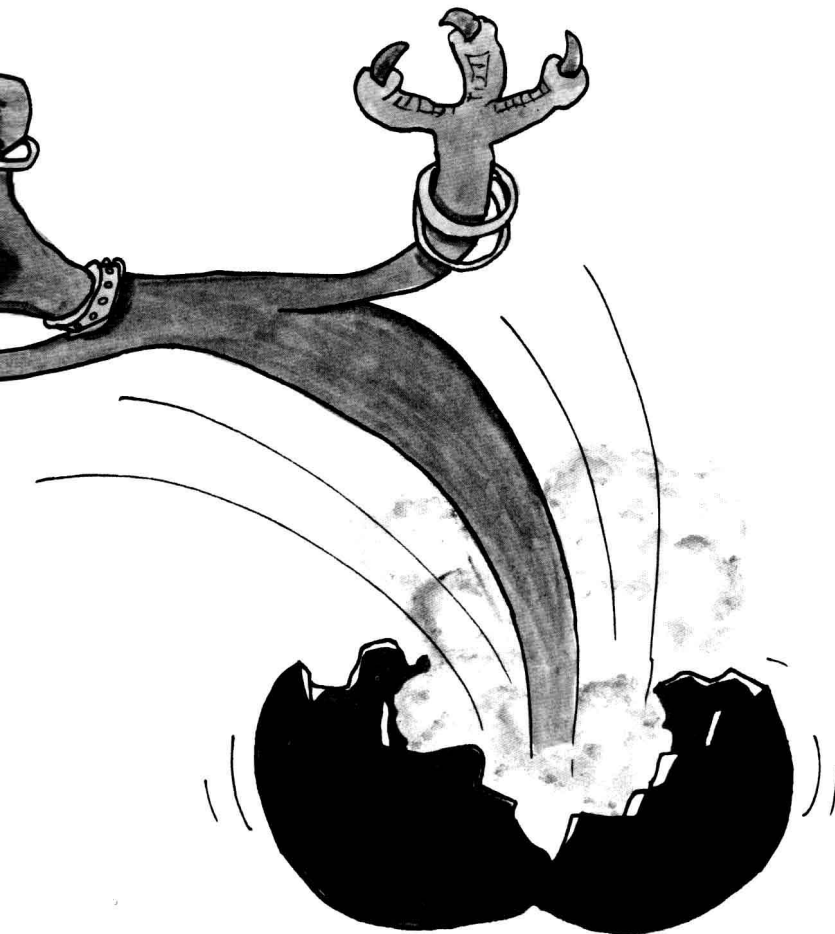
46

ふるかね

49

だいこんのしっぽ

52



しろなすのおや

58

ねずみとり

60

ころがるいも

61

はとがきいてる

66

ばかのひとつおぼえ

68

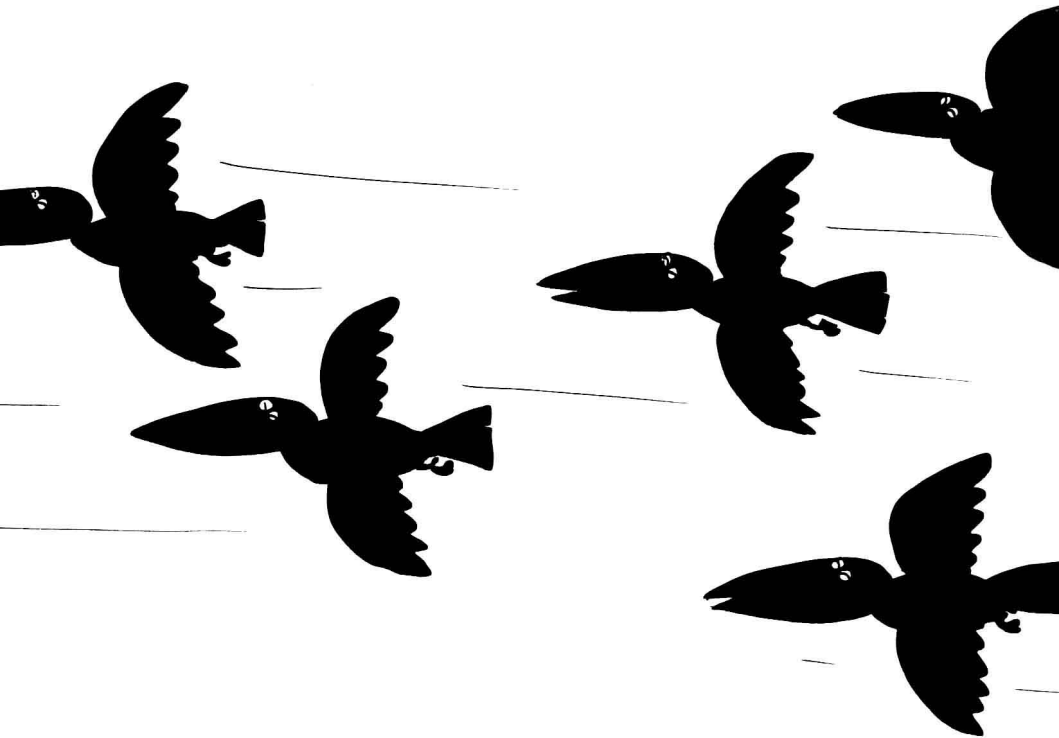
たくわんぶろ

74

そこぬけのつぼ

76





からすかきの木^き

78

あわてむこどん

80

山^{やま}は火事^{かじ}

82

あいずのひも

84

おてんとうさま

88

小^こばんにしょうべん

90

しりをおさえろ

92



とおめがね

94

ながあいわらじ

96

けちのかなづち

98

まんじゅう

100

てうちとはんごろし

103

耳^{みみ}のとおいばあさま

106

きなこのへ。

108

かさやのかさうり

へたくそなかさやがありました。きょうも、かさをこしらえたのですが、八本^{ほん}も、できそこないをつくってしまいました。ひらきっぱなしで、たためないのです。





「ばかだね、おまえさんは。ほんとうに、やくたたずだよ。」
よめどんにしかられていると、きゆうに雨あめがふりだしました。

「ようし。」

といって、かさは、できそこないをかついで、みんな、
うってきました。

「どんなもんだ。おれでもやくにたつぞ。」

いばっているので、よめどんが、

「うったおかねはどうしたい？」

「……いけねえ、おかねもらうの、わすれた。」

ねこの名まえ

ある人^{ひと}が、すてねこをひろつてきて、

「つよい名^なをつけようとおもうが、なん
というのがいいかな。」

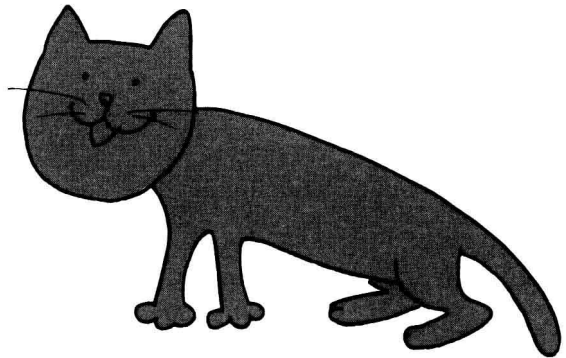
すると、きんじよの人^{ひと}があつまつて、

「とら、というのはどうだろ。」

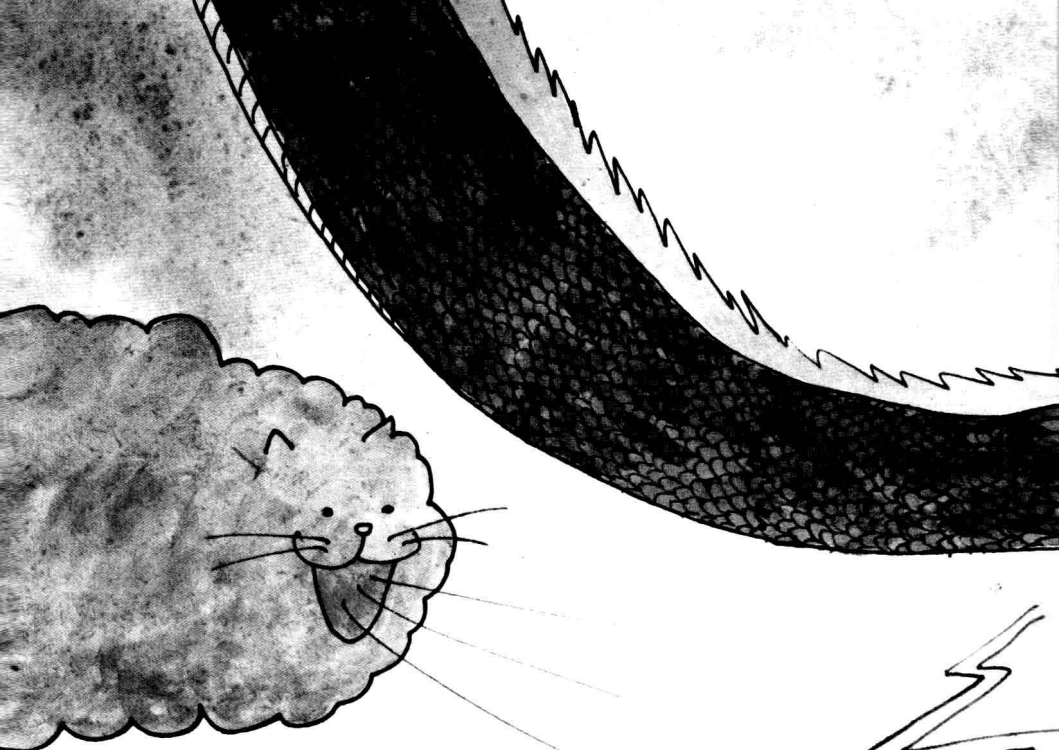
「いや、とらより、りゅうのほうがつよい。」

「りゅうは、くもにのらなければとべない。くもがいい。」

「ちがう、くもは、かぜにふかれてしまうから、かぜだ。」







「かぜは、しょうじでとめられる。しょうじがいい。」

「しょうじは、ねずみにかじられる。ねずみにしておけ。」

「ねずみは……。」

というわけで、ねこの名^なまえは、ねこときまりました。

ほりもののねずみ

さんぺいどんが、ちようじゃどんのいえで、ほりもののねずみを見^みせてもらいました。そこで、

「うちにも、もつといいねずみのほりものがありますよ。」

「じゃあ、もつてきて、見^みせろ。もし、おまえのほうがいいねずみなら、このねずみやろうじやないか。」

さんぺいどんは、かえって、いっしょうけんめい、ほりものをはじめました。なんと、かつおぶしで、ねずみをほったのです。が、どう見^みても、ちようじゃどんのねずみの

ほうが、よくできています。

さて、さんぺいどん。ちようじゃどんのいえに、ねずみをもつていって、ならべておきながら、

